



思わず口元を見せたいくなる♪

審美歯科 入門講座

鈴木喜之 著

審美歯科治療で後悔しないために…

1. 歯科医師とじっくりコミュニケーション
2. 保険治療と自費治療の違いを知る
3. 歯を大切に長く使うための治療方法を選ぶ
4. やり直し治療を続けると抜歯になってしまう！
5. 予防歯科・メンテナンスをしっかりと



思わず口元を見せたくなる♪



審美歯科

Introduction lectures of Dental Esthetic.

入門講座

鈴木喜之 著

Yoshiyuki Suzuki



はじめに

これは、ある患者様の言葉です。

「私は、子供の頃から通い慣れている歯科医院にお世話になっていました。でも、今になって後悔しています。

以前治療した前歯は、材料の変色でまだら模様になっています。

また、前歯の中で1本だけ極端に黄ばんでいます。

さらに、奥歯に全面銀色の歯が3本、他にも部分的銀歯が多数あります。

高校生のころはそれほど気にしていませんでしたが、大学生になると、

周りの同級生がみんな綺麗に見えて、自分の口の中のことで悩みはじめました。

いまでは、それがコンプレックスになっています。

先生、審美歯科治療で私の歯は綺麗になりますか？」



十年ほど前から「審美歯科」についての相談が徐々に増えはじめました。そして今、私のクリニックを訪れる患者様の多くが、審美歯科の治療やご相談の方になっていきます。

患者様の意識が変わったのです。

これまでの「噛めるだけ」の歯科治療では、もはや満足できないのです。

「審美歯科」に関心を持つ患者の増加に合わせるように、ホームページ等の診療項目に「審美歯科」を掲げる医院が急増しています。

ところが、全ての歯科医院が、患者様の期待にお応えしているとはいえない状況になっています。

私が受けるご相談の中で多いものを挙げますと、

- ・ 新しい歯を入れて最初は問題なかったのですが、1年ほど経つと歯茎がやせて、歯と歯茎の境目が黒く見える。
- ・ せっかく治したのに歯の根元が腫れてきた。

・見た目はいいのだが、食べかすが詰まりやすく、歯磨き後は出血する。などの不満をもち、自分の受けた審美歯科治療を後悔しているのです。

せっかくお金と時間をかけて治療を受けたのに、なぜ不満の残る「審美歯科治療」になってしまったのでしょうか？

私は、「審美歯科」に対する考え違いがその主な原因になっていると感じています。

審美歯科治療のことを、歯をサツと漂白したり、歯を簡単に削ったり詰めたりという「表面的な治療」だと考え違いをしている患者様が多いようです。

しかし、本当の審美歯科とは、歯の美しさに焦点をあてつつも総合的な歯科治療、長く使える歯をつくる治療のことをいうのです。

「とりあえず痛くなく噛めるようにすること」を「歯科治療」という時代はもう終わりました。

これからの歯科治療は、「噛める」「美しい」「長く使える」さらに「気持ちを前向き



にする」「心を豊かにする」ものだと私は考えています。

この小冊子を通して、私の知っている審美歯科の全てを、包み隠さずお伝えしたいと思います。皆さんには、正しい審美歯科治療の知識を身に付けて頂き、「痛くなつてから通う」従来の歯医者との付き合い方を見直して頂くきっかけになればと思っています。

私は文章づくりのプロではありません。わかりにくい表現もあるかと思いますが、できるだけやさしい言葉で書いたつもりです。最後までお付き合いくださいますようよろしくお願いします。

それでは本文へとお進みください。

鈴木 喜之

第1章 黄ばんだ歯や銀歯が気になって笑えません…

最近、診療していて感じるがあります。

「この歯をもっと白くできませんか？」

「治療が終わったら銀歯になっていました。正直、かなり気にしています」
など、「歯の美しさ」を気にする患者様が、かなり増えてきたと感じています。

従来の「痛くなく、治療回数も少なく」ということだけではなく、自分らしさを出すために、自分をアピールするために「歯を美しく見せたい！」という意思をハッキリ主張されるのです。

そのような中で、30歳代女性のAさんが、

「黄ばんだ歯や銀歯が気になって笑えません」と私のクリニックを訪ねてきました。



歯の色が気になって、思いつきり笑えません

私のクリニックを初めて訪れたAさんは、

「先生、私の住む町内の歯医者さんで治した前歯ですが、トウモロコシのような色に変色してイヤなんです。奥歯のギラギラ銀歯も、かなり気になっています」と私に悩みを打ちあけてくれました。

お口の中を診察してみると、確かにたくさん治した形跡があります。

虫歯治療の繰り返しによって奥歯は詰める治療が困難になり、大きな金属をかぶせる治療になっていました。

また、前歯の方はプラスチックで補修治療しているので、多くの歯が変色し黄ばんでいました。

Aさんは、さらに自分の歯への不満を語ってくれました。

「先生、先週も友人と記念写真を撮る機会がありました。でも私は自分の歯に自信がないので、口を開きません。」

その代り、口角を上げて笑顔に見えるように努力しています。

先生、本当は白い歯を見せて笑いたい……」

そう言って、Aさんはうつむいてしまったのです。

そうして、しばらく黙りこんだ後Aさんが

「先生、歯医者さんって治療した後の見た目のことはあまり気になさらないのですか？」と小さな声で私に言うのです。

「いや、そんなことはないのですが……」

自分のミスではありませんでしたが、思わず「すみません」と謝ってしまいました。

想像以上に、Aさんは自分の歯のことで悩み、大きな不満をもっていることが私に伝わってきたのです。



差し歯の付け根が黒くて気になります

アラフォー世代の女性Bさんが初診で来院されました。

来院理由は、前歯の歯茎に膿の袋が出来たからということでした。

問診後に、治療方法や治療期間などについて詳しく説明をして、Bさんからの質問にも丁寧に合わせていました。

そして、Bさんへの説明もほぼ終わり、次回の治療予約をとろうとした時でした。

Bさんが遠慮気味に

「あのー、先生……」

「先生、膿の袋も気になっていますが、治った後はどんな差し歯になるんですか？

黄ばんでしまう差し歯はイヤなんです。今も、差し歯の付け根が黒く見えて……」

そして、堰を切ったように一気に話し始めたのです。

「私は学生時代から、自分の歯が嫌いでした。白い綺麗な歯の同級生を見ると、とても

羨ましく思っていました」

「治療した差し歯の形や、付け根の黒色がコンプレックスになっています」

「人と話していると、いつも口元を見られている気がして、楽しく会話できません」と、心の中に封じ込めてきた悩み・不満が次々に出てきたのです。

私はBさんの本音を10分ほど黙って聞いていました。

そして、「これで本音を全て出しきってくれたかなあ？」と感じたタイミングで、次は私の方からBさんに質問したのです。

「あなたの歯の悩みや、私たち歯医者への不満や要望を、全て出すことができましたでしょうか？」

「もしも、まだ残っているのなら遠慮なくお話してください」
するとBさんは、

「ハイ、全て出しました。今日はスッキリしました♪」

「先生、正直に言うと、最初はどんな先生なのかを見極めようと、恐る恐る相談してい



ました」

「でも、先生の説明を聞いていると『私の話を心で聴いてくれる』って感じたので、全
てお話することができました」

「先生、今後の治療、よろしく願います」

Bさんの正直なお話をお聞きして、「先生」と呼ばれる立場の我々歯科医師は、患者
様の悩み、不満、不安、要望を謙虚な姿勢でお聴きしているのだろうか？

自分でも気が付かないうちに「私たち歯科医師に全て任せなさい」という〴〵おごり
が心の片隅にあったのではないか？

わが身を大反省したのです。

30歳代のAさん、アラフォー世代40歳代のBさん。印象に残るお二人の事例を紹介
しました。このお二人は、これまで受けてきた歯科治療に大きな不満を持っていたの
です。

では、その不満をつくった原因は何だったのでしょうか？

このお二人が受けた治療には、さまざまな「小さな問題」があったのだと思います。しかし、その「小さな問題」の中でも、一番の原因は何だったのか？

それは、歯科医師と患者様の「コミュニケーションの欠如」「カウンセリング時間の欠如」だと私は感じています。

第2章 高い費用をかけて治療をしたのに、 再治療になるのはなぜ？

以前、審美歯科治療を受けられた方に、その感想を聞いてみると、

「とても綺麗で、満足している」

「綺麗になって、口元に自信ができた」

「歯を見せて笑うことができるようになった」

など、とても嬉しい声をたくさん頂いています。

しかし、なかには

「こんな歯になるとは思わなかった」

「歯が痛くて噛めない」

「すぐに元に戻してほしい」

という厳しいご意見があるのも事実です。



そうなるのと再治療が必要になります。

患者様にしてみれば、せっかくお金と手間をかけて治したのに、なぜ、またやり替えなければいけないのかという不満をお持ちになるのは当然です。

患者様の気持ちや表情を明るく変えるはずの審美歯科治療で、なぜ、このような問題が発生しているのでしょうか？

私は、主に2つの原因があると考えています。

原因①「歯」に対する安易な意識

毎年、2月から4月にかけて、結婚式を6月に控えている若い女性の来院が多くなります。数カ月後に控えた式に向けて、お口の中の美しさも意識されるようです。

3年前の3月上旬のことです。

20歳代の女性Cさんが、結婚式までに「歯」の身だしなみもきちんと整えておきたいと当院に来院してくれました。これまで歯医者には、いつも悪くならないと通っていなかったようで、抜歯の必要な部位や根管治療と呼ばれる、膿んだ歯の神経の処置跡が数多くありました。

一度抜歯をしますと、傷が治り、歯茎の状態が回復するまでに、2〜3カ月ほどかかります。また、膿んだ歯の神経の処置は何回で治ると断言できません。治りにくい場合は、どうしても通院回数が増えてしまいます。

Cさんは

「先生、6月の結婚式までに、前歯だけでもなんとか間に合わせてください」

と私に懇願しました。

「でも、治す歯がたくさんあるから、間に合わないかもしれないですよ」

「だって先生、削って歯の型をとるだけじゃないですか？　まとめてサッと削ってもらえば、数回ででき上がるんじゃないですか？」



「それはダメです。安易に歯を削ったりしたら、歯は弱くなる一方ですよ」

「先生、悪くなったらまた治療すればいいじゃないですか」

これを言われた時に、私は愕然としました。

Cさんに「歯を大事にしよう」という気持ちになかったからです。

結婚式は人生の大舞台。一番きれいな状態で式に臨みたい気持ちはよくわかります。でも、歯は大切な臓器の一部です。しかも削れば削るほどもろくなり、それを繰り返すと、最悪、歯を失うことになってしまうのです。

原因② 「下ごしらえ」が疎かおろそになっている

ホワイトニングを除けば、審美歯科治療は従来の歯科治療と変わらない、歯を削つてかぶせる（詰める）治療です。しかもその多くは、虫歯や歯周病で悪くなった歯を

繰り返し治療しているのに、歯の外観はほとんど残っていません。また多くの場合、歯の神経も除去されています。

歯の神経の治療のことを「根管治療」といいます。

根管治療は、歯茎の中に奥深くもぐっている歯根先端の治療で、虫歯が進行するにつれて発生する痛みを除去するのが目的です。

また、2度3度と繰り返し同じ歯を治療することは、結果的に歯を大きく削ることになるので、虫歯は治っていても痛みが再発したり、歯がしみたりする可能性があります。そういった不快症状を抑える目的で、根管治療を行うこともあります。

何度治療しても痛みや腫れが再発してしまうのは、その根管治療が不十分なことに起因しています。

そもそも、歯の神経のほとんどは見えません。歯の神経の残骸が残っていたり、感染を起こしていると治療は難しくなってくるのです。



以前、こんなことがありました。

40歳代の女性で、育児がひと段落したので、歯をしっかりと治そうと決意し来院されたDさん。あるかかりつけの歯科医院で審美歯科治療を相談したところ、歯がつぎはぎに治されていたので、治療するとなると歯を大きく削ることになり、かえって歯がしみたり、痛くなるかもしれないと言われたそうです。

そこで、せっかくきれいな白い歯を手に入れても、冷たい物も飲めないようでは困ると判断し、痛みはなかったのですが、歯の神経を除去してもらったそうです。その後は歯がしみることもなく、審美歯科治療を無事終えたそうです。

ところが1年後、歯茎がうずくことが続くようになりました。そしてある日の朝、鏡の前に立つと、歯茎にニキビのような腫れがあることに気がつきました。

気になったのでその歯科医院に相談に行ったところ、歯の根が膿んでいるため、再治療が必要と言われたそうです。

そんな経緯があつて、私ども歯科医院にセカンドオピニオンとして相談にこられました。

歯の神経の除去治療（根管治療）は難しく、きちんと治療ができていないと歯根の先端で膿んできて、再治療になることも少なくありません。

レントゲンなどで確認したところ、やはり根管治療がうまくいっていませんでした。

「痛くもない歯の神経をとられ、その結果かえって悪くなり、しかもやり替えに費用がかかるというのは、どういうことですか？」

と私が怒られてしまいました。

「申し訳ないのですが、確かに再治療が必要です。放っておくと、痛みや腫れはもつと強くなりますから」

とアドバイスするのが精一杯でした。

同時に、もしかすると自分も同じことで患者様に迷惑をかけていないだろうかという気持ちになりました。



再治療にかかる治療期間と通院回数、なにより治療費がまたかかることに患者様がお怒りになるのは当然です。

根管治療は治療期間も長いですし、歯医者にとっても決して易しい治療ではありません。ただ、そのことを患者様が納得して頂くまで説明して、慎重に治療を進めていない歯科医側に大きな責任があるといえます。

患者様へもお願いがあります。

初期の虫歯治療に根管治療を行なうことはありません。本来なら1回の簡単な治療で済むところを、「まだ痛くないから」とか「面倒くさいから」と歯医者さんに行くのを後回しにしていますか？

根管治療をしないとイケないくらい虫歯が進行してしまうと、患者様に痛くてつらい思いをさせてしまうことになってしまいます。

審美歯科治療は、従来の歯科治療の延長線上にあり、決して特別な治療ではありません。歯科医側はもちろんですが、患者様も表面的な歯の白さや美しさを求めるのではなく、料理でいう「下ごしらえ」をきちんと行った上で、審美歯科治療を受けることをおススメします。

この「下ごしらえ」については、この後の章で詳しく説明したいと思います。

第3章 私がこの小冊子を書こうと思った理由

私が入れ歯治療を専門とする医局に在籍していた頃、

「先生、私は固いおせんべいも食べられるし痛みもないし、先生が作ってくれた入れ歯には満足しています。でも、バネが目立つので、食事の時しか入れていません」

と患者様が本音をこぼしたことがありました。歯科医師になって3年目、28歳になったばかりの頃だったと思います。

当時は、「痛くなく、噛める入れ歯」が最優先でしたから、「今さらバネを気にされても困る」というのが、偽らざる心境でした。また「もう若くないのだから、見た目を気にしてどうするの」と身勝手な考えをしておりました。

「歯の痛みをとり、しつかり噛めるようにする治療」に夢中になっていた私は、歯の



色や口元の美しさなどは気にしませんでした。1回の治療時間を短くすることや、通う治療回数を減らすことが、患者様の満足につながると思い込んでいました。

でも、その後も数名の患者さんから同じ内容のことを告げられることが重なること、単に「噛める」機能だけではなく、「美しい」見た目も重要なんだと、「再認識させられました」。

私も50歳を過ぎて、このことがよくわかる年代になってきました。

ある日、1年前に入れたさし歯がとれた事で、来院された患者様がおられました。早速、とれたさし歯の再装着を行いました。他の部位も虫歯治療を行っていましたので、問題がないか、さらに確認していると、「あれ？こんな治療したっけ？」という箇所があったのです。

カルテで確認すると、患者様はバツが悪そうに

「先生、ごめんなさい。銀歯だと目立って気になるから、他の歯科医院で白い歯に変えたの。先生は、何も言わずに銀歯にしたから」

とおっしゃいました。

この患者様の言葉に、私はボクシングでいうボディブローを食らったような気がしました。

私は、勘違いをしていたかもしれない。

患者さん一人一人、望んでいる治療が違うのではないか？

歯科医が何も説明もせずに、勝手に治療を進めていくことがいいのだろうか？

これからは「見た目の美しさ」も大切にしてあげなければ……。

「患者様が望んでいる治療とは何か」ということをしっかり聞き出してあげないといけない。「噛める」だけじゃない、歯を治療することで満足したいことが他にもあるのではないかと思うようになりました。



■「審美歯科治療」への想い

審美歯科治療が普及することで、私たち歯科医は「噛める」という機能面だけでなく、患者様が希望される口元の美しさも実現できるようにになりました。

ただ、審美歯科治療はまだまだ歴史が浅く、「審美歯科」という言葉自体も、ようやく一般に認知されてきました。

あなたのお住まいの近くにある歯医者さんでも「審美歯科治療」を行っているところが多いと思います。しかし、患者様が本当に満足できる治療がきちんと行われているのかどうかについては、「ハイ、安心して下さい」と即答できないのが実情です。

特に、表面的な歯の白さだけを求める治療は、絶対にダメです。

審美歯科治療を行う患者様のご希望を聞いておきますと、

「結婚式まで間に合わせたい」

「同窓会があるから、パーティに出席したいので」

などイベントに向けて行う方が多いと感じています。

正しい審美歯科治療を行うには、ある程度の期間が必要なのですが、中には「とにかく間に合わせてください。後でやり替えてもいいから」とまでおっしゃる方がいます。でも、考えていただきたいのです。

どんな高度な技術を駆使しても、元の健康な歯に戻ることはないので。

本来、歯は何度も治すものではありません。私は、歯を削ってはいけないものだと言え思っています。削れば削るほど歯は弱くなるのです。歯が弱くなると、そこにまた虫歯が再発する危険性が高まります。虫歯が再発してしまうと、前回よりさらに大きな範囲を削らなければいけません。その悪循環を繰り返していくうちに、最終的に歯を失うことになった患者様をこれまでたくさん見てきました。

単に歯を白くすることは簡単なことです。

でも、せっかく白く綺麗に治すのであれば、その歯を長持ちさせなくてはいいけません。



これは大切なことだと思うのです。

私は審美歯科治療を通じて、「悪くなつてから治せばいい」という、これまでの「歯」に対する意識を考え直してもらうきっかけになればと思い、この小冊子を執筆することになりました。

審美歯科治療の正しい知識を多くの方に身につけて頂きたいと願っています。

第4章 後悔しない審美歯科治療 4つのポイント

患者様に安心して審美歯科治療を受けて頂くために、私は大きく分けて4つのポイントがあると考えています。この章では、そのポイントをわかりやすく解説していきます。

ポイント① 土台づくりをしつかりと

審美歯科治療は「歯を白く、自然な口元にする」ということが目標になります。でも、その目標に向かうためには、虫歯や歯周病になっていないことが前提です。

虫歯や歯周病がある方は、まずしっかり治療することが、審美歯科治療の第一歩となります。



例えば「新築の家が地震にあった」ことをイメージしてください。

どんなに立派できらびやかな家でも、土台となる基礎工事に手抜きがあれば、簡単に壊れてしまいます。万一、やり直しになってしまうとゼロから、いや、手抜かりのあった土台を壊すことから始まりますので、マイナスからの再スタートになります。

「新築の家が地震で傾いた！」なんて、とんでもないことです。

歯科治療も同じで、まずはしっかり基礎工事を行い、どんな過酷な状況でも耐えられるような土台をつくるのが大切です。

ポイント② 歯科医との信頼関係は築けていますか？

「先生から治療の説明を受けましたが、わからないことがありました」

「先生は忙しそうに見えたので、質問しませんでした」

「このような患者様の声をよく耳にします。」

歯科医側はわかりやすく説明しているつもりでも、つい専門的な言葉でお伝えしていることがあります。

これは審美歯科治療だけに限ったことではないのですが、不安や心配な点が解消しないまま治療を受けることは、患者様が思い描いていたイメージとかけ離れた結果を招くことになります。

審美歯科で再治療となる最大の原因は、医師側と患者様側のコミュニケーション不足だと、私は考えています。

あなたが通っている歯医者さんは、あなたが質問や相談をしやすいような環境づくりをしてくれていますか？

また、あなたの質問や相談に親身になって答えてくれますか？

歯科医師と患者様がお互いに納得できるまで、しっかりとコミュニケーションをとることが、自分の思い描いた結果を手に入れるコツかもしれません。



ポイント③ 症例（治療実績）をたくさん見せてもらおう

最近、「審美歯科」の分野は急速に進歩して、治療方法もバリエーションがかなり増えました。しかし、あまりに増えすぎたために、患者様からしてみれば、自分にはどの治療方法が合っているのか決めかねるケースも多いようです。

そんな時、他の患者様の症例写真（33頁参照）やコメントがあると安心です。

「先生、私の場合この写真より色を白くできますか？」

「歯を小さく、丸みを持たせることができますか？」

など、術前と術後の比較写真をじっくり見ることで、審美歯科治療の「綺麗な仕上がり」を正確にイメージすることができるようのです。

また、患者様のコメントを読むことで、

「どんな悩みがあつて審美歯科治療を受けたのか？」

「審美歯科治療を受けて、どんな気持ちの変化があつたのか？」

● ケース1 ●

<術後>



<術前>



● ケース2 ●

<術後>



<術前>



● ケース3 ●

<術後>



<術前>





「通院期間は、どれぐらいかかったのか？」

「削った後の痛みはなかったのか？」

など、患者様の素直な体験談を知ることができます。

また、その歯科医の実力や経験を推し量る大きな材料にもなります。

ポイント④ 治療終了後もメンテナンスを忘れずに

せっかく手に入れた「きれいな歯」を長持ちさせたくありませんか？

審美歯科治療を受けられた方の多くは、この機会に歯を大切にしたいとおっしゃってくれます。新しい歯を単なる使い捨ての道具ではなく、自分の体の一部と思っただきたいのです。

歯を手入れする方法としては、2つの方法があります。

●セルフケア

セルフケアは、自分で行うブラッシングのことです。丁寧に歯の間や歯茎との境目を歯ブラシで歯磨きすることはとても重要です。

患者様にブラッシング指導をしていますと「いつもこんな風に磨いています」と、音を立てて大きく横磨きされている方がいます。

でも本当は、音をたてて磨いてはダメです。

ブラシの圧力が強いと、歯茎がやせて、差し歯との境目が見えて、かっこ悪くなってしまうのです。

「シャカシャカ音を立てて歯を磨いてはダメですよ」「音を立てない程度に、小刻みに歯磨きしてくださいね」と私はいつもアドバイスしています。

●プロフェッショナルケア

プロフェッショナルケアとは、歯科医院での定期的なクリーニングや、噛み合わせの調整のことを指します。



なぜ、歯科医院での定期的なクリーニングが必要なのかと言いますと、毎日欠かさず、どんなに丁寧に歯磨きをしても、ご自宅でのブラッシングだけではどうしても磨ききれない箇所が出てくるからです。そのまま放置しておくと、そこに歯垢がたまり、虫歯菌や歯周病菌の温床になります。

「忙しかったから、クリーニングさぼっちゃった」という声も時々お聞きます。

でも、3カ月に1回で良いので、定期的に歯医者さんへ行き、プロである歯科衛生士のクリーニングを受けて下さい。治療とは違って痛みもなく、お口の中がスツキリします。

また、噛み合わせも時間と共に変わっていきます。

常に「切れる包丁」のように研いでいく必要があります。切れない包丁で物は切れません。それと同じように、歯も噛み合わせを調整することで、サクサクと噛み切れるようになるのです。

第5章 なぜ、自費治療をおススメするのか？

前歯の治療を希望される患者様から「差し歯って、高いんでしょ！」という質問をよくいただきます。確かに前歯の場合、保険治療と自費治療では数倍以上、いや10倍以上の違いがあります。

保険治療と自費治療の違いについて、歯科医師が行う説明の多くは「時間がたっても色が変わらないですよ」とか「固い物を噛んでも壊れないですよ」という、材質の違いに重きをおいた表面的な説明だけに終わってしまうケースが多いと思います。

そう説明された患者様は「色が変わるのは、かっこ悪いしなー」とか「差し歯が欠けたら、やり替えも面倒だし」と、何となく歯科医に勧められるがまま受け入れているところがあるかもしれません。



私も、審美歯科治療を希望する患者様には、自費治療をおススメしています。
それは、

患者様の大切な歯を

もうこれ以上再治療をしないように、しっかり治したい！
という理由からです。

この章では、なぜ自費治療をおススメするのか、審美歯科治療の中で、もっとも一般的な前歯の治療を例にとつて、その理由をお話したいと思います。

■材質について

皆さんは、保険治療が「標準的な歯科診療」と考えていると思います。でも、実はそうではありません。保険治療で利用できる材質は、お役所から厳しく制限されてい



<硬質レジンでの修復>

黄ばみの出現や、レジンが一部欠けてしまう現象が起きている。

るのです。

「噛む」という機能だけなら保険治療で対応できますが、見た目をきれいに、しかも長期間維持するという点では限界があります。

「差し歯が欠けちゃった。かつこ悪いので、急いで診てください」と来院される方のほとんどが、保険の差し歯を装着している方です。

再治療にあたり、私が保険治療と自費治療の違いについて詳しく説明をさせて頂くと「そんなに違うのですね、知りませんでした」と驚かれることがよくあるのです。

保険治療で使用する前歯の差し歯は、金属の上に硬質レジンという白い材質を貼り付けた2層構造になっています。本来、金属と硬質レジンはお互いに接着しませんが、ですから特殊な表面処理を行い、無理やり貼り付けているのです。

また、レジンの場合、硬質といっても強度が咬合圧に



対して不足していますので金属で補強しているのです。

一般的に、前歯の先端部は貼り付けている金属が露出しないように配慮します。その結果、金属で補強されていないレジンだけの部分は強度が不足になり、食いちぎろうと前歯でガリッと噛んだりすると、白いレジン部分が欠けたりはがれたりします。

また、レジンとは給水性のあるプラスチックを使用しているので、長く使用し続けると黄ばみが進んでトウモロコシのような色に変色してきます。

例えて言うと、プラスチック製の白のまな板を使用すると、いつも使っている部分が黄ばんでくる現象と同じです。

患者様から「黄ばんだ差し歯を研磨して、綺麗にして欲しい」とよく言われます。でも、タバコのヤニや茶渋のような歯の表面に付くようなものであれば、研磨すればきれいになるのですが、「染み込むように黄ばんでくる」場合には、研磨の効果はほとんどありません。

● 材質による変色 ●

＜術後＞（変色しないセラミック）



＜術前＞（変色するレジン）



硬質レジンの場合、装着当初はとてもきれいなのですが、1，2年後には黄ばみ始めます。そして、5年、6年と時間の経過とともに黄ばみが強くなり、変色を気にされる患者様は差し歯の交換を余儀なくされるのです。

■ 金属を使用しないメリット

一方、自費治療ではオールセラミックやジルコニアと呼ばれる材質を使用します。硬質レジンとの最大の違いは、金属を使用しないことです。

これは審美歯科治療に限ったことではないのですが、保険治療の場合、詰めたり、かぶせたりする補綴物の材質には金属が使用されています。皆さんもご自分の口の中を鏡で見て下さい。銀歯となっている箇所はありません



● 金属を使用しない材質 ●

<ファイバーコア>



<メタルコア>



んか？

近年、金属アレルギーを引き起こすなど、人体への悪影響が取りざたされています。

また、歯根治療（根管治療）の後、新しい歯をかぶせるための土台が必要なきには、その土台製作から始めなければなりません。それでも、保険治療では金属を使用するのに対して、自費治療ではファイバーコアと呼ばれる金属を使用しない材質を使用します（写真へ金属を使用しない材質）。

金属の土台は、固すぎるがゆえに咬合力によって歯の破折を起こし、抜歯に至ることさえあります。

それに比べてファイバーコアは、噛む力に対して天然歯と同じような「しなり」を持っているので、歯根治療（根

管治療）後にはとても適しています。

でもこのファイバーコアの製作も保険治療では賄えないのです。

■治療に費やす時間

私の思っている保険治療と自費治療との決定的な違いは、その治療に費やすことのできる時間です。

保険治療も自費治療も、治療手順は全く変わりません。

① 歯を削り、仮歯を装着



② 歯型をとり、色見本から患者様の歯にあった色を選択



③ 差し歯を装着

という流れになります。

ただ、一つ一つのステップにかけられる治療時間が違うのです。



◆第1ステップ

まずは歯を削り、仮の歯を装着します。歯茎との調和がとれているのか、歯の形や厚み、大きさの確認など仮歯を繰り返し調整していく必要があります。しかし保険治療では時間的な制約があり、十分な調整期間が確保できているとはいえません。

近所の歯医者さんで保険治療を受けた結果、歯茎との継ぎ目が黒く見えてかっこ悪くなり「交換して欲しい」と当院に相談にこられる患者様があります。せっかく綺麗な白い歯を装着しても、継ぎ目が見えるようでは意味がありません。

◆第2ステップ

歯型をとる時にも、シリコン印象と呼ばれる精密な歯型をとる材料があります。

とても精密に歯型がとれますので、是非使いたい材料ですが、保険治療ではコスト上、使用することが難しいのです。

◇第3ステップ

出来上がった歯型をもとに、歯科技工士が差し歯を製作していきます。

時代と共に歯科医が、それぞれが得意とする専門治療を推し進めるようになったのと同様、歯科技工士も得意とする分野に特化して、歯科技工を行うようになってきました。

例えば、インプラント専門、入れ歯専門、審美歯科専門というようにです。

特に審美歯科治療の場合、歯科技工士が製作する補綴物（セラミックやジルコニアで製作される歯のことを言います）が決め手になります。

やはり審美歯科に特化した専門の歯科技工士に製作してもらった方が、患者様の満足度も高いのです。

第6章 審美歯科治療が気持ちを前向きにする

歯科医師として審美歯科治療を行った後、治療を終えられた患者様の变化に気が付くことがあります。それは、患者様の顔の表情が変わり、よくお話をされるようになることです。

「この患者様は、本当はこんなにお話し好きだったんだ！」と驚かされる瞬間です。最初の頃は目を伏せてうつむき加減だった顔が、治療後は、こちらの顔をまっすぐ見てお話をしてくれます。そして、「先生、実はこんなに悩んでいました」と打ち明けてくれます。

例えば、

「歯の色が、黒ずんでいる所と白い歯の所がまだらになって嫌でした。話をする時には口元を見せないように、つい手をあてていました」（50代女性・主婦）



「歯が黄ばんでいると、年齢より老けて見えるんですね。肌もガサガサしているので、余計目立ってしまう気がしていました。」（40代女性・会社員）

「歯がねじれてはえているのがコンプレックスでした。

そのせいで、これまでは人前で思いっきり笑うことができませんでした。笑顔をつくらないといけない写真撮影も大嫌いでした。」（20代女性・学生）

「タバコを吸うせいか、歯茎の色がピンク色ではなくて黒いんです。

女性なのに、ヘビースモーカーと思われるのがイヤでした。」（30代女性・会社員）

「小さい頃に治療した虫歯は、銀歯になっているところが数カ所ありました。

最近知ったのですが、その銀歯には数種類の合金が使用されていて、場合によっては金属アレルギーの症状が出るかもしれないと聞き、とても不安でした。でも、歯医者に行くのは億劫で…」（30代男性・会社員）

ところが、審美歯科治療を終えると、とても素敵な笑顔でイキイキとお話になってくれるのです。笑ってくれるようになるのです。

■患者様インタビュー その1

ある30代女性の患者様です。

「先生、いつできるの?」と来院するたびに完成予定日を聞く、少々せっかちな患者様でした。この女性は前歯6本を治す予定でした。当然、すぐにはできませんので、あらかじめ治療終了日は4カ月後になると事前にお伝えしていました。

前歯6本をコンポジットレジンという詰め物で何度も歯科治療を行っていましたので、詰めた材料が変色を起こし、つぎはぎ状態でした。茶色や濃い黄色、黒など様々に見えて、白い歯の原型がわからないくらいでした。



私が行った治療としては、歯根治療（根管治療）が十分に行われていませんでしたので、一度歯根治療（根管治療）を正確に行いました。

また、歯石除去やブラッシング指導など、歯周病治療の下ごしらえを充分に行った後に、金属を使用しないジルコニアによる差し歯を製作しました。

土台になる部分も、しなやかで咬合力でも歯根に負担のかからない、ファイバーコアを使用しました。

通常、これだけの治療を行いますと、約6カ月ほどの期間がかかります。

でも、患者様は、今か、今かと待ちわびています。

そんな時は「今回、しっかり治しておけば、後でやり替えしなくてすみえますから」と励ましました。

待ちに待った装着日が来ました。

そして、新しい歯を付けた時は「ああ、やっと終わった」という表情になり、そして、しげしげといろんな角度から鏡をのぞきこむのです。

次回来院した時も、「家に帰ってから、ずーっと鏡をみていました」と嬉しそうに

話をしてくれました。苦勞した分、感激もひとしおだったのかもしれませんが。

そして、「ずーっときれいな白い歯でいるためには、どうしたらいいのですか？」という質問をいただきました。

その時、私は「やったー！歯の大切さをわかってもらえたんだ」と思わず声をあげたくなりました。

■患者様インタビュー その2

お子様が3人いらっしゃる40歳女性です。

「先生、私は学生時代から歯に自信がなかったので、白い綺麗な歯を見ると、とてもうれやましく思っていました。また、人に会うと、いつも口元を見られている感じがして不安でした。」

と胸の内を明かしてくれました。



彼女は昔、前歯を差し歯にした時から、その歯の形や、差し歯の付け根が黒いことにコンプレックスを感じていて、治療に満足していませんでした。でも、それをはつきり前医に言えなかったそうです。それから数年後、治したはずの差し歯に痛みを感じ、別の歯科医院を受診しました。

歯茎に膿の袋ができていて、差し歯を壊して治療するか、歯茎を切らなくてはいけないと言われたそうですが、新しく差し歯を作っても、また不自然だったらどうしよう、抜歯になるかもしれない不安や差し歯が入るまでの時間が不安で、彼女は治療を先送りしていました。

やはり、自分が気にしていることは、必要以上に敏感になってしまいうんですね。人は自分が気にしていることは、他人が全く気にしていなくとも「見ている」と思い込んでしまうからでしょうか？

そこで、私は次のような提案をしました。

膿の袋は、マイクロスコープという20倍程度まで拡大できる歯科用顕微鏡を利用して精密に治療を行い、消失させます。

次に、従来のメタルボンドと呼ばれる金属を下地に使用する方法ではなく、ジルコニアという金属を全く使用しない歯にすることで、付け根の黒いラインがなくなり、白く透明感のある歯になります。

歯茎との境目の黒ずみ感を消すために、かぶせものだけではなく、土台も白く、強度の十分な材質を使用し、歯茎の中1ミリ深く差し込み、継ぎ目を隠します。

以上のことに注意を払えば、「きつと気に入っていましたよ」と伝えました。

その後、彼女は一生懸命通院して、満足された歯を装着できました。

そうしますと、最初の頃とは表情が一変して、明るい笑顔でいらつしやるようになります。「夫や子供にも、きれいな歯だねと言われ、ニコニコしていました」とおっしゃっていました。



彼女からは「もう歯では苦労したくないので一生大事にします」という言葉をいただきました。

どうやら審美歯科治療後には、歯を大切にすることが芽生えてくるようです。

「悪くなったら治せばいいや」という意識から「どうすれば、いつまでも白くきれいな歯で過ごせるか」に考え方が変わるのです。

これまで歯医者さんには、虫歯や歯周病になってから通っていた患者様が、虫歯や歯周病にならないために、予防対策として定期的に歯科医院に通ってくれるようになるのです。

治した歯を自分の体の一部のように大切に思っていただけすることは、歯科医師冥利につきます。

「大切にしよう」と、心から思わなければ長続きしませんよね。

綺麗な歯を装着している「今」だけを見るのではなく、綺麗な歯を維持し、充実した日常生活を送れる「未来」を見ていただいているのだと思います。





おわりに

ここまでお読みくださり、ありがとうございます。

拙い文章で、読みづらくはありませんでしたか。

私の思いのたけをぶつけてみましたが、書き綴ったこの中から、何か小さなヒントでもみつけて戴けたなら、とてもとても嬉しく思います。

近年、患者様の希望は多様化しています。従来のように「痛くなく、早く治療が完了して、ちゃんと噛めればそれでいい」という希望だけではないように感じています。

例えば、

「治療が終わってみると、小さい虫歯なのに銀歯になっていた。大ショック！」

「歯が黄ばんでいるのに、その色に合わせて差し歯を製作している」

「差し歯がすぐに欠けてしまった。どうして？」

「歯科医は何も言わずに治療を進めてしまう。私の希望を聞いて欲しいのに……」

このような要望や不安、不満を私たち歯科医師には聞こえないような「小さな声」で叫んでいるような気がしています。

これまでの銀歯による治療。

治療してから2～3年で変色してしまう差し歯。

歯科医が説明もせずに進めてしまう、選択できない治療。

このような旧態依然とした歯科治療に対して、

「先生、その治療方法はイヤです」と患者様が言い始めました。

歯科医師は、これまで患者様に積極的にお伝えしなかったことがあります。

保険治療と自費治療の問題です。

「医療の提供」という「公共的使命の担い手」という意識から、「治療費用」に関する説明を躊躇してきたのです。

しかし、それでは「患者様のニーズの多様化」にはついていきません。



説明を躊躇する歯科医師に、しびれを切らした患者様の方から、

「私は、保険治療では満足できません。自費治療について詳しく説明してください」とハッキリ言うのです。

なかでも、歯の治療と共に歯の美しさも求めて「審美歯科」をお受けになる患者様には、保険治療と自費治療の違いについて詳しい説明が絶対に必要です。

患者様に広い選択肢を提供していくことは、歯科医師の責任です。

もしも、そのことを怠れば患者様を失望させてしまうのです。

「噛むという機能」だけではなく、「歯の美しさ」も求めている患者様の意識と、「先ずは治療する」という歯科医師の意識には大きなギャップがあるのです。

私は、院内ミーティングで、

「自分も受けてみたい。そして、自分の家族も受けさせたい歯科治療を提供していこう」と、我々の進むべき道についてスタッフと話し合っています。

その道を着実に歩んで行くために、

・その治療方法によって得られる利点、欠点を正確にお伝えし、ベストな治療法を

選択してもらう。

- ・患者様にはたつぷりと時間をかけて、治療の説明を行おう。
- ・勉強や技術の習得に努力をおしまない。

という行動指針をつくり、その理念の浸透に取り組んでいます。

自分も受けてみたい。

そして、自分の家族を受けさせたい歯科治療

こんな歯科治療を提供して、幸せの輪を広げていきたいと強く願っています。

私たちの一番の喜びは、患者様がご自身の歯を鏡でご覧になって、

「うわぁーきれいになった！嬉しい♪」と、心からの笑顔を見せてくださる瞬間です。

さらに、私にはもう一つ大きな喜びがあります。

それは、「先生、このキレイな歯をずっと大切にしますね♪」と笑顔を見せてくれたときです。

このときの私は嬉しくて、マスクとメガネの下で満面の笑みを浮かべています。



「患者様の喜びは、私たち治療スタッフの喜び」

「この喜びが連鎖し、その輪がさらに大きくなっていけ！」

私たちは歯科治療を通じて「歯の健康と、体の健康、心の豊かさ」を提供していきたいと考えています。

もうこれからは、遠慮は無用です。

これまではハッキリ伝えてこなかった「あなたの本当の気持ち」を私たちにお話してください。そして、納得のいくまでじっくりと相談してください。

「こんにちは。美しい歯にしたいので相談にきました」

「治療するなら長く使いたいのので、その治療方法を説明してください」と、
歯科医院のドアを気軽にノックしてください。

鈴木 喜之



● 著者プロフィール

鈴木 喜之

(すずき よしゆき)

1962 年 山形県山形市生まれ



幼少時代は勉強嫌いで草野球や虫取りに熱中。

小学校時代、虫歯では散々つらい思いをしたせいか、痛くない優しい歯医者さんに憧れ、歯科大学に入学。学生時代は卓球部に籍をおき、3年生でキャプテンを任され、弱小クラブの辛さを経験。雑草根性が身につく。

大学卒業後は入れ歯の医局に7年間在籍。大学医局員時代は診療後も深夜まで入れ歯製作業がつづく。その後山形市南栄町にて開業。子供の虫歯と歯周病の患者様の数の多さに驚き、ホームドクターとしてのオールマイティな知識と歯科治療技術の必要性を痛感する。

医局員時代に患者様から言われた「入れ歯になっても綺麗で、若くありたい」という言葉が忘れられず、2001年より審美歯科治療に注力して、2008年からはマイクロスコープを使用した精密歯科治療に没頭し技術を磨く。審美歯科治療においては患者様とのコミュニケーション／カウンセリングを最も大切にしている。

一日の診療が終わると、山形の地酒を頂きながら家族団欒を大切にしています。

● 院内セミナー

治療すればするほど歯が持たなくなる事実

「歯を削っちゃいけないんです」セミナー

☆月に1回院内待合室にて開催中

● 山形インプラント治療相談室

インプラントに特化したホームページ

<http://www.yamagata-implant.com/>

● ブログ

ブログで皆さんにお役にたつような歯科講座を開催中

こだわり歯科医が語る本音の歯科講座

<http://ameblo.jp/suzukisika/>

● フェイスブック

プライベートな私を見てください。

こだわり歯科医オンフェイスブック

<http://www.facebook.com/yoshiyuki.suzuki.7777>

● Facebook ページは

「鈴木歯科クリニック 歯科よろず相談所…今日のへえー」

毎日歯科治療をおこなっていて、患者様に説明したことや質問されたことをワンポイントでお伝えします。

<http://www.facebook.com/sikayorozusoudan>

● ツイッター

毎朝ご挨拶と本日の予定をお伝えしています

こだわり歯科医オンツイッター（鈴木歯科クリニック）

<https://twitter.com/suzukil855>

● 連絡先

鈴木歯科クリニック

〒 990-2445 山形県山形市南栄町 1-3-33

TEL 023-626-1855 FAX 023-634-1188

E-mail : dentsuzuki@gmail.com

<http://www.dent-suzuki.com/>

思わず口元を見せたくなる♪ 審美歯科入門講座

平成 24 年 10 月 13 日 初版発行

著 者：鈴木 喜之

発行所：アート印刷株式会社

香川県木田郡三木町池戸 1779-13

電話 087-891-0170 FAX 087-891-0168

URL <http://www.artinsatsu.com/>

印刷・製本 アート印刷株式会社

乱丁本・落丁本はお取替え致します。

©Yoshiyuki Suzuki 2012 Printed in Japan

ISBN 978-4-904392-09-6

＜鈴木歯科クリニック 医院案内＞

【診療科目】 審美歯科／入歯（義歯）／インプラント／マイクロスコープを
用いた根管治療／歯周病／予防歯科／矯正歯科／口臭治療

【診療時間】 9：00～12：30／14：00～18：45（土曜日は17：00まで）

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:45	○	○	○	×	○	○	×

【休 診 日】 日祝祭日・木曜日午後休診

【住 所】 〒990-2445 山形県山形市南栄町 1-3-33

【連 絡 先】 ☎ 0120 (68) 1855
023 (626) 1855

【E メール】 dentsuzuki@gmail.com

【U R L】 <http://www.dent-suzuki.com/>

鈴木歯科クリニック

検索





9784904392096



1920047007000

ISBN978-4-904392-09-6
C0047 ¥700E

定価： 本体 700 円 + 税

